

ワクワクする旬の酒・食・文化マガジン

盛夏号

50

隔月刊

2009年7月1日発行

土佐とき発

# オトゴチ

——オトナノ御馳走——

●発行所 「オトナノ御馳走探偵団」  
●発行人 田長 竹村昭彦(社) 丹波道社代表(株)



2009.7.1

オトナノ御馳走  
ありがとう  
50号

オトゴチ  
50号記念

## 思い出す3つ

## 夕立のあと

「浴衣を出したけど、着るかね」  
風呂上がりの僕ににこりと笑って母  
が言った。さっそく糊のきいた浴衣に袖  
を通すと、去年より随分小さく感じる。  
「あら? ちんちくりんになっちゃう…  
縫い上げをほどこいちゃおき、脱ぎなさい」  
そう言われたものの浴衣の肌ざわりが  
心地よく、僕は祖父母のいる離れへと  
走った。  
葦簀が張られた部屋からは、蚊取り  
線香の煙が外にまで漂っている。  
「おばあちゃん」背中こしに呼びかける  
と、祖母は団扇をあおぐ手を止めて高  
い声を上げた。  
「まあ、魚の模様が涼しげでえいねえ。  
おじいちゃんにも見せちゃって」  
そんな会話をしているうちに夕立が  
きた。畳にころんと寝転ぶと、むせるよ  
うに青臭い夏の匂いがたちこめてくる。  
昼間の遊び疲れに湯上がりの気持ち良  
さも手伝って、うとうとしかけたこ  
ろに、母がお盆を手にしてやって来た。  
「おそめんをゆがいてきたき、食べな  
さい。その間に浴衣を直しちやるきね」  
僕は冷えたそめんをつるつると  
流しこみ、「うん、生姜がこじやんと  
きいちゅう。おじいちゃん、お酒がすすむ  
で」と言った。「こりゃあやられた。この  
子は将来大酒飲みになるぞ」祖父が頭  
を掻きながら笑った。

オトゴチ読んだその日から、みんな入れるオトゴチ探偵団！  
 楽しい集いなどおすすめイベントやニュースとともに、団員の皆さんからのお便りをご紹介します。  
 さあ、楽しく実りある毎日のために、みんなで素敵なオトゴチを探していきましょう！

日本人なら必読の書！

「世界に誇る—品格の名酒」

**日** 本酒嗜酒師でもあり、ワインコーデ  
 イネーター、焼酎アドバイザー、チ  
 ーズ・プロフェッショナルなどさまざま  
 な肩書を持ち、活躍中のトータル飲料  
 コーディネーター・友田晶子さん。そんな  
 友田さん執筆の「世界に誇る—品格の名  
 酒」が、四月に発売になりました。

**A** 4サイズの美しい表紙、その堂々た  
 るタイトル  
 に、思わず惹かれ  
 ページをめくつ  
 てみたくります。

団員の皆さんの  
 中にも、お読みに  
 なられた方もい  
 らっしゃること  
 でしょう。

**2** の中には、友  
 田さんが選  
 んだ「世界に誇  
 りうる日本酒100



銘柄」が紹介されています。それは、北  
 は北海道、南は九州までの蔵元の日本酒  
 の中から「風土」「物語」「暖簾」「香  
 味」「未来」の五つのキーワードで選ん  
 だものだとか。これらの要素を併せ持つ  
 日本酒は、まさに世界に誇れる逸品です  
 が、その100銘柄に「司牡丹・船中八策」もビ  
 ックアップされているのです。高知県の

歴史ある蔵として見開きページで紹介  
 され、徹底した取材で書かれたきめ細や  
 かな文章と味のある写真が美しくレイ  
 アウトされています。

**ま** た、この本には、銘柄・蔵元紹介だけ  
 に留まらず、いろんなシーン（パー  
 ティ、フレンチ、イタリアン、寿司、和食、  
 深夜、居酒屋）に合う銘柄の紹介や、日本  
 酒の基礎知識や種類、旬の食材と  
 の楽しみ方など、初心者でも楽し  
 める項目がたくさん載っています。

とつきにくい専門用語が羅列す  
 るような専門書ではなく、雑誌感  
 覚で眺めても楽しい書籍。これは  
 もう日本酒のバイブル！団員の皆  
 さんに絶対読んで（鑑賞して）いた  
 だきたい一冊です。

▼日本酒とチーズ…記事も面白い！



「世界に誇る—品格の名酒」

友田晶子 著（英語翻訳付）  
 発行：キャップジャパン  
 発売：ジャパン・プランニング・アソシエーション  
 定価：3800円+税（ハードカバーは4500円+税）

団員通信



**前** 号の「夕映えのラン  
 ドセル」は子供時代の  
 の郷愁を感じました。私  
 は七十四歳。遠い昔のわ  
 んぱく時代は太平洋戦  
 争の最中でした。物不足  
 で特に食糧難に泣かさ  
 れました。私は旅好きで、  
 御地を旅したことも再々  
 です。今年一月にはトル  
 コへ、そして昨年はエジ  
 プトを訪ねました。カイ  
 ロやイスタンブールは  
 歴史の町でした。

（松浦美樹さん・高知市）

（榎原和茂さん・島根県雲南市）

子供時代の思い出  
 は年を重ねるほ  
 どいとおしくなりますよ  
 ね。榎原さん、これからも  
 ますますお元気で、世界  
 旅行をお楽しみください！

オトゴチ  
 母

つかの間の骨休  
 め、思いっきり楽  
 しみましょうよ！離れて  
 いてもご家族の絆は深  
 いと感じますし、ワタシ  
 としては松浦さんに寂  
 しいと思ってもらえる  
 ご主人がウラヤマシカ  
 ったりして…。

の介護のた  
 めに高知県  
 中土佐町に五年  
 ほど帰っていました。毎年  
 春には佐川へ出向き、桜と  
 ともに弁当と焼酎いっこ  
 そう「や酒を楽しまし  
 た。山の上の桜の間から、  
 ほろ酔い気分です。あ  
 の酒蔵を眺めました。あの  
 景色は目に焼き付いてい  
 ます。また美しい季節に  
 帰りたいと思っています。

（西山和子さん・茨城県古河市）

**今** 年のゴールデンウイ  
 ークは結婚二十二年  
 で初めて主人と離れてい  
 ました。家では四月に独  
 り立ちした長男が帰って  
 きたのですが、友だちの  
 所へ行ってほとんどいま  
 せん。娘はバイト、主人は

西山さん、ありが  
 とつづきます。